



医事課  
塚田 薫

# 子宮頸がん予防ワクチンについて

今年も残すところあとわずかとなりました。皆様お変わりないでしょうか？  
今回は子宮頸がん予防ワクチンについて説明します。

## ① 子宮頸がんとは

子宮頸がんは子宮の入り口にできる癌のことで、主にヒトパピローマウイルス（HPV）というありふれたウイルスの感染が原因です。性交経験のある人の多くは、HPVに一生に一度は感染すると言われており、感染しても、ほとんどの人はウイルスが自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。HPVには、200種類以上の型があり、子宮頸がんの原因となるHPVの代表は16型と18型で、子宮頸がんの原因の約65%を占めています。また、子宮頸がんの年齢階級別罹患率は20代から上昇し、40代にピークを迎えます。



参照：厚生労働省HP  
MSD製薬資料

## ② HPVワクチンの種類

現在、公費で接種できるHPVワクチンは3種類あります。

※令和5年（2023年）4月からシルガード9も公費で受けられるようになりました。

### ● 2価HPVワクチン（サーバリックス）

HPV16/18型の感染とそれによる子宮頸部異形成を予防する効果を示されています。

### ● 4価HPVワクチン（ガーダシル）

HPV16/18型の感染とそれによる子宮頸部異形成を予防するとともに、HPV6/11型の感染とそれによる尖圭コンジローマも予防することが示されています。

### ● 9価HPVワクチン（シルガード9）

HPV16/18/31/33/45/52/58型の感染と子宮頸部異形成を予防するとともに、HPV6/11型の感染とそれによる尖圭コンジローマも予防することが示されています。

## ■ 2価・4価HPVワクチンと9価HPVワクチンとの交互接種について

HPVワクチンの接種は、原則、同じ種類のワクチンで実施します。しかしながら、2価または4価HPVワクチンで規定の回数の一部を完了し、9価のHPVワクチンで残りの回数の接種を行う交互接種についても、実施して差し支えないこととしています。

## ③ HPVワクチンの接種対象者

### 定期接種

2023年度に小学6年生～高校1年生相当の女の子

（2007年4月2日～2012年4月1日生まれ）

また平成19年度生まれの方で、定期接種対象の年齢を超えても2025年3月31日まで公費（自己負担）なしで接種することができます。



### キャッチアップ接種

H9年度生まれ～H18年度生まれの女性

（1997年4月2日～2007年4月1日生まれ）

かつ過去にHPVワクチンの合計3回接種を完了していない方

キャッチアップ接種は2025年3月31日までです。

※対象年齢を過ぎた女性でも任意（自費）で接種を受けることが可能です。



## ④ HPVワクチンのリスク

定期接種対象の3種類のワクチンの接種後の症状として頻度の高いものは、接種部位の疼痛、発赤（紅斑）、膨張です。頻度は低いです。重い症状（重いアレルギー症状、神経系の症状）が起こることがあります。

子宮頸がんの予防にはHPVワクチンの接種と定期的な子宮頸がん検診の2つが大切です。

HPVワクチンの接種とあわせて、20歳を過ぎたら子宮頸がんの早期発見、早期治療のために、2年に1度の子宮頸がん検診を受けましょう。

参照：厚生労働省HP

## 予防接種のご予約について

予防接種は、WEB（福田病院HP）・窓口で予約できるようになっております。  
お客様のWEB予約の利用登録がお済みでない方は、先に利用登録を行ってください。  
また、ご予約前には過去の予防接種履歴をご登録ください。  
今後のスケジュールを正しく判断するために必要となりますのでご協力お願いします。

<ご注意>

当院での受診歴がない方、（診察券をお持ちでない方）はWEB予約をご利用頂けませんので、  
直接小児科までお電話ください。

小児科直通 TEL 096-319-2566